

「日本の諸地域 近畿地方」～環境保全の視点を中心にして～

本単元で育成する資質・能力

思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とのかかわる力
社会貢献力 自己形成力

単元について

○単元観

本単元は、中学校学習指導要領地理的分野1－(2)の「日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりにとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる」ことを学習活動とし、(2)－ウ日本の諸地域では、「地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える」と示されている。この視点を中核として、近畿地方の特色を学習する。そのうえで、近畿地方の学習内容をふまえ、生徒が地理的事象を見つけて、その特色を調べたり、事象間の関連を考察したりして、地域的特色をとらえさせる学習活動を設定し、自分たちが暮らす福山の環境保全に関わる課題を生徒自身が設定する。生徒が設定した課題に対して、様々な資料を活用して福山の地域的特色と近畿地方との類似点を考察し、その課題解決に向けた過程や結果を適切に表現するといった学習活動を取り入れる。

○生徒観

本単元を学ぶにあたって、生徒は小学校3・4学年の社会科で、「地域の人々の生活にとって必要な飲料水」や「廃棄物の処理」について、実地調査や公共施設の社会見学を通じて、「地域の人々の健康な生活や良好な環境の維持と向上」に行政が大きく関わり、計画的に進めていることを学んでいる(小学校学習指導要領社会2－(3))。また、生徒は福山市が発行している副教材『大好き福山』を活用して、「地域社会」について学習している。

次に「主体的な学び」に関するアンケートを7月に行った。

	項目	肯定的	否定的
主体力	授業のめあてを達成するために1時間の授業を頑張っています。	97%	3%
	授業のめあてやレポートについて、自分から進んで調べ、書いて、発表しています。	88%	12%
協働力	グループ・ペアで活動するときに、友達と協力して目標やめあてに取り組んでいます。	94%	6%
	友達の良い発表やアイデアをいかして、自分の文章を書いています。	94%	6%
創造力	自分らしい考えをいかして、「まず」「つぎに」や「比較すると」などの言葉を使って文章を書いたり発表しています。	85%	15%
	「なぜだろう・どうしてかな・おかしいな」といつも質問を考えています。	74%	26%
決定力	資料やデータにもとづいて、自分でわけや理由を深く考えています。	91%	9%
	どんな方法でまとめたり、発表したりしようかを自分で考えて決めています。	89%	11%
解決力	どうすればこの課題がとけるかを、いろいろと考えを出しています。	89%	11%
	新しいことを学ぶときに、これまでに知っていることや学んだことをいかしています。	88%	12%
成長力	自分の学習の仕方を振り返って反省し、もっと良い学習の方法を考えています。	91%	9%
	自分に足りないところは何かを考え、もっとどんな力を付ければよいかを考えています。	86%	14%

アンケート内で計った「主体力」，「協働力」，「決定力」，「解決力」，「成長力」の項目に関して，すべて80%以上の肯定的評価となった。授業では「なぜ」「どうして」を含めためあてを常に設定している。生徒は，めあてに対して意欲的に考え，資料を教科書や資料集から探し，自らの答えを文章化し，全体に発表している。生徒は全体発表をした仲間の良いアイデアをメモし，自らの解答文とともに仲間の良いところをふまえた振り返りを毎回の授業で書いている。授業への意欲の向上とともに仲間の発表を傾聴する姿勢が身に付きつつある。

しかし，『「なぜだろう・どうしてかな・おかしいな」といつも質問を考えています』という創造力の項目が，すべての中で一番低い数値であった。「生徒自身が課題を発見する」授業を創造することが重要である。

○指導観

指導にあたっては，主体的な学びとなるよう，生徒に必然性を感じることでできるような授業にしたい。近畿地方は日本古来の歴史や文化が色濃く残る町にあふれ，国内外からの観光客で毎日賑わっている。観光客の目的は，日本特有の歴史や文化を感じるためであるといえる。近畿地方，とりわけ京都への観光客は増加の一途をたどっている。増加の要因が，歴史・文化だけでなく，京都にクラス人々の知恵や努力も大きな要因であることを生徒に考えさせたい。その要因を考えるにあたって，同単元の中核となる「環境問題」「環境保全」をキーワードとして，近畿地方の特殊性について考察させ，文章で表現させる。

同単元の最終目標として，「あなたは，市役所の環境保全課に勤めています。環境を守る理由を市民に分かりやすく説明しよう。そして，市民を巻き込んだ環境保全の取組をレポートにまとめて，中学生向けの広報紙にのせよう」といったパフォーマンス課題を設定する。近畿地方についての既習事項と福山市の類似性や異なる点，あるいは環境保全についての福山市の課題と解決策を周囲に発信することを目標とする。福山市と比較させることで実生活と結び付いた学びになる。生徒の関心意欲を大切にするとともに，生徒の思考を深め，その思考を理論的に整理し，発表する場を設けることを通して，本校が設定した資質・能力の育成を図りたい。

単元の目標

- (1) 地域の産業，文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事柄を中核として，それを国内外の他地域との結び付きや自然環境などに関連付け，地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景が関わっていることなどについて考える。
- (2) 地域の環境問題や環境保全の取組を中核として，それを産業や地域開発の動向，人々の生活などに関連付け，持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。

単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 見方や考え方	ウ 技能	エ 知識・理解
歴史的背景，環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方を基に，日本の諸地域の地域的特色に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，捉えようとしている。	近畿地方の地域的特色を，歴史的背景，環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	①近畿地方の地域的特色に関する様々な資料を収集している。 ②収集した資料から，近畿地方の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。 ③適切に選択した情報を基に，近畿地方の地域的特色について読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近畿地方について，歴史的背景，環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解し，その知識を身に付けている。

資質・能力と評価の観点とのかかわり

本校の育てようとする資質・能力				評価の観点			
				関	考	技	知
知識							○
スキル	思考力・ 判断力・ 表現力	思	①学習したことを使って、自分の考えをまとめる力 ②根拠をもとに、正しい判断をする力 ③よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 ④自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力		○	○	
意欲 態度	主体的に学ぶ力	主	①自ら考え、判断し、行動する力	○			
価値観 倫理観	他者とのかかわる力	他	①他者と協力（協働）して、課題を解決しようとする力 ②他者との関わりを通して自分の考えを深めたり広げたりする力	○	○		
	社会貢献力	社	①地域のよりよい社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力		○		
	自己形成力	自	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力 ②自信を持つ力		○		

Ⅰ 学習内容とⅡ 学習活動、Ⅲ 単元として育てたい資質・能力のつながり

I 近畿地方における環境問題や環境保全の学習を通して、II 福山市との類似点や相違点を比較検討し、III 参考にすべき点や新しい発想をレポートにまとめ、地域社会のために何をすべきかを考え実行しようとする力を養う。

単元の終末におけるパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
あなたは、市役所の環境保全課に勤めています。環境を守る理由を市民に分かりやすく説明しよう。そして、市民を巻き込んだ環境保全の取組をレポートにまとめて、中学生向けの広報紙にのせよう。	A <ul style="list-style-type: none"> ・環境を守る理由を近畿地方の特色をふまえて説得力のある文章で構成している。 ・福山市にみられる課題を挙げ、「なぜそのようなことがおこっているのか」について仮説を複数立てられている。 ・仮説をもとに、福山市における環境を守るための具体策が考えられている。 ・その具体策が論理的であり、建設的な提案になっている。 ・レポートの内容に適した資料を選んで説明している。
	B <ul style="list-style-type: none"> ・環境を守る理由を近畿地方の特色をふまえて説明している。 ・福山市にみられる課題に対する仮説を立てている。 ・仮説をもとに環境を守る具体策が考えられている。 ・資料を用いて説明しようとしている。
	C <ul style="list-style-type: none"> ・環境を守る理由を書こうとしているが、既習事項をふまえていない。 ・福山市の課題を考えることができていない。 ・資料を用いていない、あるいは関係のない資料を用いている。

指導と評価の計画

時	学習過程	学習内容	評 価					
			関	考	技	知	評価規準 (評価方法)	◇資質・能力育成場面 【資質・能力】 ◆資質・能力評価場面 【資質・能力】 (評価方法)
1	課題の設定	・近畿地方の基礎的・基本的な情報を収集・整理し、近畿地方の中核となる事象「環境保全」を見いだす。特に琵琶湖は近畿地方の人々の水がめである。人々の命をつなぐ意味でも「環境保全」の大切さに気付かせる。	◎			○	ア (机間指導, ノート点検) エ (机間指導)	◇◆自分なりに課題に対して見通しを持ち、考察したことをノートへまとめている。 【主一①】 (机間指導, ノート点検) 【思一①】 (机間指導, ノート点検)
2	情報の収集	・奈良県橿原市今井町の取組を取り上げ、環境保全が叫ばれる理由を今井町で生活する人々の生活と関連付けて考察し、文章でまとめる。		○	○		イ (机間指導, ノート点検) ウ一① (机間指導, ノート点検)	◇◆奈良県で環境保全に取り組む理由を、既習事項や資料から読み取ったことを関連付けて文章でまとめている。 【主一①】 (机間指導, ノート点検) 【思一①②】 (机間指導, ノート点検)
3	整理・分析	・京都の取組を取り上げ、既習事項を活用しながら、環境保全に取り組む理由を人々の生活や経済と関連付けて考察し、文章にまとめる。	○	○	○		ア (机間指導, ノート点検) イ (机間指導, ノート点検) ウ一② (机間指導, ノート点検)	◇◆京都府を奈良県と比較し、共通性と京都の特殊性を、人々の生活や経済と関連付けて気付き、文章にまとめている。 【主一①】 (机間指導, ノート点検) 【思一①②】 (机間指導, ノート点検)
4	整理・分析	・奈良・京都と福山市を比較して共通性や特殊性を見だし、福山市の「環境保全」の取組を整理・分析し、レポートを作成する。	○	◎	◎		ア (机間指導, ノート点検) イ (机間指導, ノート点検) ウ一② (机間指導, ノート点検)	◇◆福山市の環境保全の取組を奈良・京都と比較し、共通点と福山独自の取組を整理し、分析している。 【主一①】 (机間指導) 【思一①②】 (机間指導, レポート)
5	整理・分析	・福山市の環境保全の取組について整理分析したものをもとに、地域の課題を見だし、新しい環境保全の取組についてレポートにまとめる。	○	◎	◎		ア (机間指導, ノート点検) イ (机間指導, ノート点検) ウ一③ (机間指導, ノート点検)	◇◆あなたは、市役所の環境保全課に勤めています。環境を守る理由を市民に分かりやすく説明しよう。そして、市民を巻き込んだ環境保全の取組をレポートにまとめている。 【主一①】 (机間指導) 【思一④, 社一①, 自一②】 (レポート)
6	創造・表現 まとめ	・レポートにまとめた提案を発表する。 ・発表者の提案を評価する。 【本時】	○	◎			ア (机間指導, ノート点検) イ (机間指導, ノート点検)	◇◆相手に分かりやすく伝えることができている。 【主一1, 思一④】 (レポート, 発表)
7	実行・振り返り	・前時の提案をもとに、個々のレポートを再考し、グループごとに発表し、交流する。	◎	○			ア (机間指導, ノート点検) イ (机間指導, ノート点検)	◇◆複数の意見を傾聴し、より良い地域社会を作り出すための意欲がさらに高まっている。 【主一1】 (机間指導)

本時の学習

(1) 本時の目標

福山市の環境保全の取組に対して、自らの意見や考えをしっかりと持ち、その提案を相手に納得させるように分かりやすく説明することができる。

(2) 準備物

レポート、付箋、教科書、地図帳、資料集、OHP

(3) 学習展開 (6 限目 / 7)

まとめ・創造・表現

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法) 【資質・能力の評価】
導 入 (7 分)	<p>1 課題意識を持つ</p> <p>○パフォーマンス課題に対するレポート内容を個人で確認する。</p>	◇レポート内容を自分の提案を確認させる。	
	<p>【本時のめあて】</p> <p>福山市の環境保全の取組に対して、自らの意見や考えをしっかりと持ち、その提案を相手に納得させるように分かりやすく説明することができる。</p>		
	<p>○「めあて」を確認する。</p> <p>○付箋を配布する。</p>	<p>◇発表者に対し、他者が聴きながら整理しやすい表現方法を確認させる。</p> <p>◇付箋には発表者に対し、肯定的な評価を書かせる。</p>	
展 開 (33 分)	<p>2 発表と評価</p> <p>○司会者に進行を任せる。</p> <p>○代表者3名が提案を発表する。 H…はっきり表現する</p> <p>○発表者の提案に対する意見交流と評価を行う。誰の提案についての意見交流をそのグループがするかを指定する。 J…じっくり考える H…はっきり表現する</p> <p>○提案者の発表を受けて、各グループで意見交流したことについて全体で交流する。 H…はっきり表現する K…くり返し挑戦する</p>	<p>◇発表者に対し、相手意識を重視させる。(大きな声とゆっくり丁寧に説明させる)</p> <p>*OHPでレポートを映し出して説明する。</p> <p>◇近畿地方における環境問題や環境保全の学習(人々の生活を衛生面で守る、歴史的景観の保護)を通して、福山市との類似点や相違点を比較検討できているか、また参考にすべき点や新しい発想をレポートにまとめ、地域社会のために私たちは何をすべきかを提案できているかを視点に、交流させる。</p> <p>◇発表者の内容を自分のレポートと比較させ、パフォーマンス課題の発表を受けて、「①行政に提案できるもの」と「②中学生ができるもの」の2点について整理させ、それぞれを付箋に書かせる。各グループ内で根拠を明確にして、意見交流させる。</p>	<p>ア 意欲的にパフォーマンス課題に取り組んでいる。(レポート)</p> <p>【主-①】</p> <p>イ 課題を見だし、その解決方法を論理的に提案している。(レポート、発表)</p> <p>【思-④】</p>
ま と め (10 分)	<p>3 まとめ</p> <p>○発表者の提案と全体交流から、地域社会で自分たちができていることを整理する。</p>	<p>◇パフォーマンス課題の発表を受けて、グループ毎に下記の2点をまとめ、全体に発表させる。</p> <p>①行政の範囲では、授業で学んだことが社会を変えることにつながり、学校で学ぶことの意味を理解させる。</p> <p>②私たち城北中生徒が動くことで、地域社会がより良くなり、社会貢献につながることを理解させる。</p>	